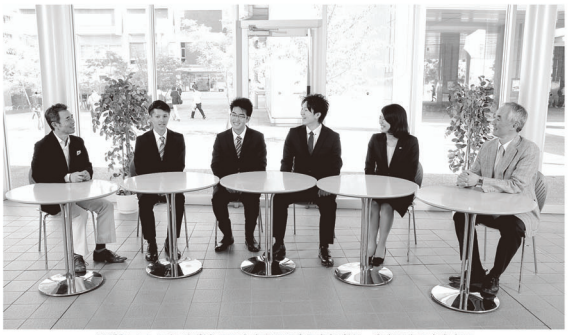
全国高等学校ビジネスアイディア甲子園

素朴な案をビジネスアイデアにするには――

「不便」探し 日ごろから

高校生のフレッシュな視点で、商品やサービスなどを提案する「全国高等学校ビジネスアイディア甲子園」（大阪商業大学、毎日新聞社主催）の最終審査と表彰式が12月12日、東大阪市の同大学で開かれる。2002年に始まり、第14回大会の今年は全国の151校から7475件の作品が寄せられた。同大学では、学内向けに「大商大ビジネス・アイディアコンテスト」も行っている。高校、大学を通じ、素朴な問題意識を、いかにビジネスアイデアにレベルアップさせていけばいいのか。その楽しさや、今後身につけるべき力などについて、過去のコンテスト受賞者である学生ら4人と、コンテストに課題協力した企業カワキタの河北一朗社長、谷岡一郎学長に語り合ってもらった。【大道寺絆子】



ビジネスアイデアを考える面白さを語り合う参加者ら＝東大阪市の大商大で

大商大学長×受賞学生×企業で座談会

「何かやりたい」思い一番



大阪商業大学
谷岡一郎学長

専門は犯罪学、ギャンブル社会学。「科学研究とデータのからくり」（PHP新書）、「40歳からの知的生産術」（ちくま新書）など。

谷岡　まず、それぞれの受賞作がどんなものだったのか、どのようにアイデアを練ったのかを教えてください。

林　「大阪のお土産」という課題に応募したのですが、まず食べ物をイメージしがちです。でも、私は訪れた土地の良さが形として伝わるものにしたい、と思いました。特にお土産を介して、家族がコミュニケーションをとれるものができないか、カルタというアイデアが浮かびました。いわゆる観光名所だけでなく、自分だけの思い出の場所を追加できるように、工夫しました。

片岡　僕が考えたのは、広告パーキングというビジネスモデルです。僕自身、よく車で買い物に行くのですが、ショッピングモールの広い駐車場だと、どこに止めたのかわからなくなり、探すのに時間がかかってしまいます。「何か目印があればいいのに」と思うようになりました。

坂本　僕は河北社長から、親子がコミュニケーションをとるようなものをという課題をいただいていたので、親子が一緒に家事ができれば発想しました。大学付属の幼稚園でアンケートをとらせてもらい、どんな家事がいいのか、などを絞り込んでいきました。アンケートをとることで、僕の認識との違いがわかり、実際に使う人たちの声を聞くことの重要性を学びました。

伊集　僕は高校時代、もともと理系に進学するつもりでした。でも、高校2年の時にアルバイトをしてみて、働くことの大変さを痛感しました。特にアルバイトだと立ち会いも言えないし、「もし自分が経営者だったら」と考えるようになり、今の学部を選びました。

河北　「どうすればもっと良くなるか、深めることが大事です。また、同居の祖母や母が、「こんなものがほしい」とヒントを与えてくれることもあります。アイデアって意外と会話から生まれることも多い。コミュニケーションは大事ですね。

谷岡　やはり「何かやりたい」「形にしたい」という思いが一番でしょうね。私は審査にあたり、高校生は荒唐無稽でもそこに思いがあるかをポイントにしています。一方、大学生のコンテストでは、プランとして多角的に練られているかも加味します。アイデアを考えるうえで、高校生の人たちへアドバイスはありますか。

林　私は現在、さまざまな旅行プランをお客様に提案しているのですが、事前調査はいくらやっても悪くないので、実際には人が集まらないことも多くあります。旅行する人、受け入れ施設の人など、それぞれのニーズに応えながら、いかに良いものにしていくか、コンテストの時も、あきらめないことの大切さを感じましたが、社会に出て改めて実感しています。

片岡　僕がコンテストに応募したのは、正直、最初は副業の海外の研修狙いでした。でも、1年目に応募した時は全くダメで、来年こそと思って、専用のアイデア帳を持ち歩くようにしたんです。そのうち、アイデアを考えることが楽しくなってきました。きっかけはどうであれ、絶対入賞する、という強い心は本当に大切だと思います。

坂本　僕はアイデアを思いついたら、まずそんな商品があるかないか、インターネットで検索するようにしています。似たような商品があっても、どうすればもっと良くなるか、深めることが大事です。また、同居の祖母や母が、「こんなものがほしい」とヒントを与えてくれることもあります。アイデアって意外と会話から生まれることも多い。コミュニケーションは大事ですね。

伊集　僕は高校時代、もともと理系に進学するつもりでした。でも、高校2年の時にアルバイトをしてみて、働くことの大変さを痛感しました。特にアルバイトだと立ち会いも言えないし、「もし自分が経営者だったら」と考えるようになり、今の学部を選びました。

河北　「どうすればもっと良くなるか」を、日常でも少し意識してみるといいですね。特に高校までは、同じ学校の友達や先生、家族の輪の中で過ごしがちで、それ以外の人に接する機会は少ない。でも、近所の世代の違う人だったり、斜めの関係でさまざまな価値観に触れることも大切です。そういう意味でも、ビジネスアイディア甲子園にいろんな人に意見をもらえることは貴重な機会だと思います。

谷岡　ビジネスも、大学も、どんな付加価値をプラスアルファできるかだと思います。教育の本当の価値は、入学時の偏差値などではなく、在学中にそれだけ力を伸ばせられるか、何かやってみたいという気持ちを大事にしてほしいですね。

多くの価値観に触れて



株式会社カワキタ
河北一朗社長

会社は1946年創業で、文具やキャラクター雑貨の企画・製造・販売を手がける。地域の子どもたち向けのイベント「カワキタわくわく祭」を大商大の学生と一緒に取り組むなど、積極的に地域貢献に取り組んでいる。

あきらめないことが大事



日本旅行動務・2014年度卒業（総合経営学部商学科）
林亜祐美さん
「いいとこいっぱい　いしきりん　かるた」（第10回東大阪商工会議所会頭賞）

会話の中にヒントある



総合経営学部商学科４年
坂本達也さん
「家事っ子～皿洗い編～」（第12回東大阪地域活性化支援機構理事長賞）

アイデア練ること面白く



経済学部経済学科４年
片岡長祥さん
「広告パーキング」（第11回東大阪地域活性化支援機構理事長賞）

ひらめきは突然やってくる



総合経営学部経営学科２年
伊集大悟さん
「大型車専用カーナビ」（第12回副学長賞）

高校生のチャレンジ精神促す

ビジネスアイディア甲子園

ビジネスアイディア甲子園は、「世に役立つ人物の養成」という大学建学の理念に基づき、「起業教育」の実践の場としてスタートした。審査においては、他の事例との違いがあるか（新規性・着眼点）▽マニーズがあるか（市場性）▽収益をうむか（実現可能性）▽内容を的確に伝える力や熱意（表現力）――の四つの観点で評価される。

例えばニーズを発見するには、４Ｆ（不便、不満、不足、不十分）という視点が重要。募集要項には、そうした着想のポイントなどを、高校生向けにわかりやすくまとめたガイドブックを添付し、高校生のチャレンジ精神を促している。

学生の「起業教育」実践の場に

大商大ビジネス・アイディアコンテスト

大商大ビジネス・アイディアコンテストは、学部学生や大学院生を対象に2003年度から実施。12年度からは、協力企業から与えられたテーマをもとに提案する「課題部門」と、「自由部門」の２部門制になった。企画書の書き方や、プレゼンテーションの仕方など、きめ細かいサポートを通じて、学生自身の成長を促している。

13年度に東大阪商工会議所会頭賞に選ばれた「マグネット反射ワッペン」は、課題協力企業の旭電機化成（大阪市東成区）の協力で実際に商品化もされた。また副賞として、海外ビジネス研修や、インキュベーション施設「大商大アントレ・ラボ」の専用オフィス環境を無償利用できるなどの特典も用意されている。

第14回全国高等学校 ビジネスアイディア甲子園
最終審査&表彰式　入場無料・事前申込不要
日時 2015年12月12日(土) 12:00～14:45(開場 11:30)　会場 大阪商業大学 ユニバーシティホール蒼天
最終審査にノミネートされた応募者自身によるプレゼンテーションが行われます。
高校生の自由な発想によるビジネスアイディアの発表と情熱あふれる姿をぜひ会場にてご覧ください。また、記念講演も開催を予定しています。

記念講演
講演タイトル　オンリーワン商品開発の秘訣
記念講演講師　ハードロック工業株式会社 代表取締役社長 若林 克彦（かつひこ）氏
1933年大阪市生まれ。1955年大阪工業大学卒業後、バルブメーカーに就職。設計技師となる。1961年戻りのナットに出会い、緩み止めナット「Uナット」を開発。バルブメーカーを退職し「Uナット」の製造・販売に乗り出す。1974年「ハードロックナット」を開発。新たにハードロック工業を設立し、「ハードロックナット」の製造・販売を開始する。

最終審査対象アイデア ※順不同
ミラクルボウル　福島県立郡山商業高等学校 3年　近内 早紀さん
Ladle change(レイドル チェンジ)　群馬県立安中総合学園高等学校 3年【グループ名】鳥武山エクストリーム【代表者】鯛澤 忍さん　山際 瞬兵さん　武井 ゆずきさん
色が変わる手洗い石けん　長野県穂高商業高等学校 3年　今清 優香さん
四季ファニチャー　愛知県立豊橋工業高等学校 3年【グループ名】TEST (Toyohashi Engineer Students Try)【代表者】鈴木 崇弘さん　今泉 拓海さん
テーブル内蔵型(紙)神ナプキン　愛知県立豊橋工業高等学校 3年【グループ名】きれいに食べ隊【代表者】冨田 泰治さん　大村 拓巳さん
ラクドリー　大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校 1年　寺阪 花帆さん

お問い合わせ
大阪商業大学 リエゾンセンター 社会連携・研究支援課
〒577-8505 大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10
Phone：06-6785-6262　FAX：06-6785-6156
E-mail liaison@oucow.daishodai.ac.jp
URL http://ouc.daishodai.ac.jp/liaison/
最新情報はホームページで更新していきますのでご確認ください

【アクセス】近鉄奈良線「河内小阪駅」徒歩5分
大阪商業大学 Osaka University of Commerce

【主催】大阪商業大学　毎日新聞社　【後援】経済産業省、大阪府、大阪府教育委員会、東大阪市、東大阪市教育委員会、大阪市教育委員会、全国商業高等学校協会

※毎日新聞社の許諾を得て転載しています。